

琉球大学学術リポジトリ

御挨拶：新しい局面の展開に向けて

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 國府田, 佳弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017517

【御 挨 拶】

—新しい局面の展開に向けて—

本年度の総会には東京、大阪、福岡の会員の方々を含めて合計111名の方の御参加をいただくことができました。本会が56年に設立されたときには、正直申し上げてこのように早い時期に、これだけの方々が本会に関心を持っていただけるとは思いもよりませんでした。ふり返ってみますと、設立当時は沖縄という生物資源開発に絶好の地を沖縄の人々自身が、まだ認識されていなかった頃であります。時代の要求は生物資源開発へと大きく向っていたのでありまして、本会の設立そのものも、その一環として捉えることができるでしょう。使えば無くなってしまふ鉱物資源と違って、生物資源は適切に使えばいつまでも再生産が可能で、同時に自然環境を維持することができるものであります。最近、これに関わるシンポジウムや講習会が各地で開かれておりますが、これらに参加されている方々の所属を見ると、機械、鉄鋼、プラントの大手会社など、これまで生物を資源として考えることとは全く関係のなかったところが多数を占め、これに商社、地方自治体、食品会社などが加わっているといった以前には考えられなかった様相を見せております。また、経済企画庁が本年4月に調査したところによりますと、全上場企業の約20%がバイオテクノロジーに対して経営戦略上の関心を持っているとあります。世の中は新しい展開を始めているのであります。

昨年、本会が主催した「東南アジアにおけるバイオマス利用に関する国際シンポジウム」も13ヶ国から320人の人が参加して下さり、予想以上に盛会でありました。これなどは時代の要求と、ニュースレター5号で鮫島氏が指摘されたように沖縄という場所がその開催に適地であったことを如実に示すものと言えましょう。このシンポジウムも第2回を開かなければなりません。あるいは再び沖縄で開催することになるかも知れません。その際には、琉球大学、日本農芸化学会なども主催者に御参加いただけることと思います。

一方、沖縄における生物資源利用に関する動きも急であります。先日発表されました沖縄県の昭和60年度の重点施策新規事業のなかにもバイオテクノロジー手法による花き等の増殖試験が取り入れ

られ、沖縄開発庁におきましても長官自らが、沖縄におけるバイオマスランド構想の具体化に向けて衆知を集めるシンポジウムをこの秋に開くと国会で述べておられます。これらの動きは本会の活動と無関係ではありません。日頃の会員の活動と発言がこのような方向に動く原動力のひとつになっており、今後とも本会が、沖縄にとどまらず我国の生物資源利用の動きの中でなう分野は大きいと思います。

さて、去る第4回総会で再び会長をお引き受けすることになりました。会の役員というものは次々と新しい人に代って、新しい活力を入れて行かなければその会は停滞するというのが私の日頃の考えかたでありましたので、総会準備の理事会におきましては再度に涉って会長交代をお願いしたのでありますが、研究会誌が安定に出るまでは本会が軌道に乗ったとは言えない、としてお聞き入れいただけず、重任することになった次第です。お引き受けいたしましたからには、微力ながら皆様のお役に立ち、社会から評価される研究会にするために精いっぱい努力をするつもりでございます。生物資源のことを始めに取り上げましたが、本会の研究対象は生物資源に限らず、前号の巻頭言で泉理事も述べておられたように、水資源をはじめ、広く熱帯・亜熱帯地域で特徴的に取り上げるべき資源ということですから、この方面の関係者の活動もし易いように進めて参りたいと思います。あと3年、会員の皆様の力強い御支援をお願い申し上げます。

会長 國府田 佳弘

(琉球大学農学部教授)